



11月10日(日)「紅葉台ハイキング」に出かけました。“紅葉台”なんてどこにでもありそうな名前ですが、私たちが行ったのは、山梨県富士五湖の紅葉台です。もう少し具体的に言うなら、西湖の少し南側で、国道139号線よりは北のエリアです。車やサイクリング、あるいはランニングでこのあたりを走るとすれば、国道139号線か西湖の周回道路なのではないでしょうか。そんな時は、目的地が必ずありますから、それに向かっていて、たとえ案内板があっても目に入っても頭には届かないもの。そこで今回は、その名に惹かれて季節もピッタリ、「紅葉台ハイキング」！

天候に恵まれ、雲一つない青空。もちろん、富士山とは河口湖駅からお友達です。河口湖駅からバスで15分、一本木バス停で降り、足和田山まで一気に上ります。ここは別名「五湖台」富士五湖が一望できるというのですが…。次の展望地「三湖台」でお弁当をひろげます。大きな富士山、その麓に広がる樹海、雪をかぶった南アルプス、そして湖と雄大なパノラマをぞんぶんに味わいます。下山後、樹海を散歩して氷穴と風穴を見学します。そして、風穴バス停に着いたもののバスは行ったばかり？大月駅では乗り継ぎに失敗！でも、神様は私たちの味方でした。



1000 円のフリース売れ行き好調

11月10日(日) 朝7時30分八王子駅横浜線ホームに集合したのは、小野勝彦さん、桜井利子さん、加藤忠さん、加藤純代さん、宮部忠和さん、板垣実さん、町田行弘、7名です。今回の「紅葉台ハイキング」に参加したかったに違いない(しなかったであろう?)宮部香与子さんは、エアロビクス中に負傷した膝がまだ治らず、河合稔さんは、9月に怪我した手が治らず、横山和明さんは、自宅の柿の木から落ち腰を痛め、石井アヤ子さんは、風邪をひいてしまったということでした。町田も人のことは言えず、このところ夜中から朝方にかけてひどく咳き込んで睡眠不足がちなのですが...

中央線ホームに移動して7時37分の高尾行きに乗ります。高尾駅で7時47分の河口湖行きに乗り換え、終点の河口湖駅で降ります。河口湖駅に着いたのは9時25分、ここから乗るバスは、10時3分、時間があります。といっても駅周辺にはコンビニがあるわけでもなく、小さな駅の売店があるだけ。しかも、売店にはお弁当やサンドイッチ、おにぎりなどはなく、ささやかなお土産物屋といった品揃えです。ところがなぜか店頭にはワゴンがあって、フリースが1000円で売られていました。河口湖駅に着いた時、ちょっと寒いなぁと感じた方が多いようで、それもそのはずで河口湖の標高は約800メートル、加藤さん、小野さん、桜井さんが次々に購入します。西湖の標高はさらに高く約900メートル、足和田山は1355メートル、氷穴・風穴は天然の氷があるほどですから、備えあれば憂いなしといったところでしょうか。



バスの運転手は登山ガイド

ほぼ、定刻にバスが到着し、乗り込みます。乗客のほとんどがハイカーで、バスの運転手も心得たもので、ハイカーの登る山に応じて降りるバス停を親切に案内してくれます。さらには、運転手お勤めの山の案内まで飛び出し、これがまた幅広く、道志から丹沢にいたるほど。「ここは絶対登らなきゃお客さん。是非行って下さいよ」

約15分で一本木バス停に到着。ここから歩き始めます。舗装路を5分、登山道入口に着きます。ここから、山頂まではひたすら上りが続きます。着込んでいた上着を脱いで少し薄着になります。10時30分ゆっくり上り始めます。全体的に黄色く色づいた木々のトンネルを進みます。左手に所々富士山が顔を出します。20分ほど町田が先頭を歩きましたが、少し息があがって

くると咳き込んでしまいちょっと苦しい。水分補給の休憩を機に、最後尾につくことにしました。

山の斜面をジグザグにどんどん上って行くと、左に富士山がきれいに眺めることができる場所に到着しまし



た。一番奥に富士山、麓に紅葉した樹海が広がり、手前には国道139号線が確認できます。このあたりから少し緩やかな尾根歩きとなり、10分ほどで、今度は南アルプスが見えます。

五湖台とは今やウソ！

小海・大嵐への分岐を越え5分、足和田山に到着、振り返ると大きな富士山が、そして眼の前に展望台があり、上ればパノラマ！富士山の右手奥に本栖湖、反対側には河口湖と西湖が見下ろせます。でも、山中湖と精進湖は確認できませんでした。ここは、富士五湖全てが展望できることから別名「五湖台」と名付けられているのですが...。「そんなわきゃないよな。でも気になる」帰って調べてみると「五湖台と名がついてはいるものの、成長した樹木に阻まれて今や五湖は見えない」といこと。あんなに天気がよく、澄んだ空気の中で、自分たちだけが見ることができなかったわけではありませんでした。時刻は11時





30分をまわり、展望を楽しんでいるうちに12時に近づきます。ここで、昼食と思ったのですが、先に来たハイカーたちでベンチは埋まっています。記念撮影をして、三湖台へ向かうことにしました。

三湖台へは約1時間の緩やかな下りです。道幅はゆったりとしていて、陽当たりの良い林の中を歩いて行きます。右手には木々の間から西湖を眺めることができます。途中、ひとりでハイキングを楽しんでいる婦人をすれちがい、言葉を交わします。「五湖台からは富士五湖が見えるのでしょうか?」「いえ、全部は見えませんでしたね」「そうなんですか」いろいろなガイドブックには、たぶん、いかにも全ての湖が見渡せるかのように表現されているのだと思います。



雄大なる三湖台

のんびりと林の中を歩き、最後に丸太の階段を上ると大きな広場に放り出されます。ここが「三湖台」。昨年4月に上った「矢倉岳」の山頂に着いたときをちょっと思い出しました。少し振り返ると大きな富士山が、そして広場からは雲ひとつない大パノラマです。富士山の右に連なる山なみの奥に雪をかぶった南アルプスが見えます。そのやや左下に本栖湖が確認できます。三湖台の三湖とは、西湖・本栖湖・精進湖ということですが、精進湖はどうも見ることはできません。西湖は、広場の奥のほうから見下ろすことができました。



この、広場にいるハイカーも多いのですが、その広さゆえ人口密度は低く感じます。時刻は12時45分、もちろん、ここでお弁当!おにぎりや、お湯を沸かしてカップラーメンなど。食後。記念撮影をして、広場をうろつきます。これから向かう紅葉台を見下ろし、さらに氷穴・風穴に行く時ほんの少し通る樹海の広さに改めて驚かされます。約1時間の休憩を終えて、紅葉台へ向かうことにしました。

紅葉台展望台はパス

紅葉台へは、ほとんど下りです。とてもハイキングに来たとは思えない服装の人や本当にここまで歩いて来たの?という小さな子供などのファミリー、とても歩きにくそうな靴をはいた女性などとすれ違います。さすがに気軽なハイキングコースなんだなぁと思って歩いていると、車がたくさん駐車しています。なるほど、そこは紅葉台展望台の駐車場でした。紅葉台展望台は古い2階建てのビルで、わざわざ上る雰囲気はありませんでしたのでパス。途中、車の通る林道と交差しながら、東海自然歩道を進みます。しばらく歩くと小さな広場があり、ここにも「紅葉台」という看板がありました。さらに、東海自然歩道を下って行くと国道139号線が見えてきました。すぐ手前を右折しすぐ左折すると国道の下にトンネルがあり、ここを抜けると景色が変わります。薄暗く、苔が増え、溶岩が散らばっています。樹海の中に入ったのに気がつきます。標識に従って5分ほど歩くと「鳴沢氷穴」に到着です。もちろん中を見学します。はいつくばって歩くような天井が低く狭い場所なんかもあり、子供の頃の探検隊のよう。寒くなったこの季節なので、特に中の気温の違いはあまり感じませんが、暑い夏だったら気持ちがいでしょう。





樹海の中を歩いて

氷穴を出て、今度は風穴へ向かいます。風穴までは、樹海の中のハイキングコースで約20分とのこと。さっそく歩き始めると「いのちの電話」などの看板や、「生きろ！」などの落書きや、“親からもらった命を大切に”という趣旨の詩が書かれて

いる看板など、本当に自殺のため樹海に入ってしまう人がいるんだなあ。あたりはさらに薄暗く、風穴への標識やすれ違う人がいるとホットする雰囲気です。コースから迷い込まないように白いひもが張られているとなんだか背筋が寒くなり



ります。確かに20分ほどで「富岳風穴」に到着しました。「鳴沢氷穴」に比べると、売店もなく、駐車場もなく、人も少なく、樹海の中で薄暗くさみしい。せつかなので、中を見学しますが、まあ、氷穴と同じようでこんなものか(蛇足といった感じかな)。ここが今回の終

点、風穴バス停へ歩いていきます。バス停に着き、時刻表を見ると、15時36分、次は16時36分、そして現在15時40分。バスは行ってしまった！？でも、目の前の国道139号線は渋



滞中、きっと遅れているに違いない、そう信じたい。でも、風穴が始発だったら？(朝、河口湖駅から乗ったバスは風穴行きでした)とにかくジタバタしてしょうがないので、しばらく待つことにします。50分過ぎ、バスがやってきました。ラッキー！やっぱり渋滞で遅れていたのです。

500 円の特急券のスリル

河口湖駅に着くと、「大月行き電車の発車まであと5分」と誰かが叫んでいます。その声にみんな慌てて切符を買って、ホームに停車している電車に乗り込みます。しば

らくして、発車。ビールを買う暇がありませんでした。そして、大月駅に17時47分到着します。乗り継ぎはよく、17時52分普通電車立川行きです。JRのホームに立ち、電車に乗るだけという状態なのですが、小野さんと桜井さんの姿がありません。富士急行線の改札口でつかまっている様子。そして、駅の外へ出て行きました。どうやら、大月駅までの切符だったようです。そうこうしているうち立川行きの電車は発車してしまいました。どうやら、二人が購入した切符は、大月駅まで、しかも、子供用だったようです。みんな慌てていたからね。まあ、しかたがないよと、缶ビールを買って乾杯！ 次の電車は18時の特急、18時10分の特急、18時18分の普通です。八王子駅までの特急料金は500円、じゃあ特急に乗ろう！18時の特急電車の指定席車両に乗ってしまい、ドア付近にたむろします。車掌が通り過ぎます。特急料金を払う意志はあるのですが払えません。八王子駅が近づくにつれて、払う意志は少しあるのだけれどあまり払いたくなくなり、ついには、こうなったら払うものか！そして、とうとう払いませんでした。小野さんと桜井さんのお陰で、普通電車より20分も早く八王子駅に着いたのです。特急料金は、いつもの橋本の飲み屋で刺身盛り合わせに変わり、ビールとともにお腹の中に入れていきました。さて、町田は翌日、仕事中に塩素ガスを吸い込んでしまい、その日の夜中、呼吸困難を起こし救急車で運ばれ入院してしまいました。病名は気管支喘息。そして、その週の土曜日退院しました。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
加藤純代	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577- ホ -22-101 042-793-1271

